

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600227		
法人名	東洋測量設計株式会社		
事業所名	グループホーム ふれあいの里 たちばな		
所在地	佐賀県武雄市橘町大字片白425-1		
自己評価作成日	令和 4年 9月 2日	評価結果市町村受理日	令和4年11月7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い庭の敷地は、開放感があり、ゆったりとした気持ちで桜や、ヤシの木、クルーザーなど景色が広い窓から見渡せる事が出来ます。山の緑も季節により色が変り、田んぼもホームの目の前に広がり、田植えや稲刈り、収穫等も季節の変化を知らせてくれています。職員と入居者様と親子のような関係を持ち、笑い声がホーム内に響き渡り、楽しく過ごせる雰囲気づくりに努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

船が飾られた広い敷地には、桜並木があり、周辺には田畑が見渡せ、四季を感じることができるホームとなっている。職員は和やかな雰囲気での入居者に接し、ホーム内は穏やかな時間が流れている。コロナ禍で外出が出来ない状況下でも、出前をとり気分転換や外食気分を味わってもらい入居者に楽しんでもらえるような工夫がなされている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 4年 9月 16日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の共有と実践の為、毎朝申し送り後、唱和し介護に入る事を続けています。理念を念頭に置いて介護を行う事も続けていきたいと思えます。	勤務開始前に理念を唱和し、理念を念頭においた実践が行われている。会議開催時には、理念の振り返りを行い、理念は浸透できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響が大きく、交流が出来ずにはいますが、推進会議は状況を見ながら最小限の人数で行うときもあります。老人会の方とは玄関先での会話のみで終わったり、小学校との交流もまだ出来ずにはいます。	コロナ禍前は老人会や小学生との交流があったが、現在は区長や老人会の方が数名来所され、玄関先での交流となっている。また、職員が地区のお堂掃除をしたり地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向け地域の理解、支援の方法等勉強会を開催したいと思えますが、実践していません。コロナの消息も見えず、実践できずにはいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	独断的にならずに問題提起し参考にさせて頂いていたが、コロナがまだまだ落ち着かない為にアドバイスを頂く機会が少なくなっていますが、今までどうりより良いサービスを行えるように努力していきたいと思えます。	コロナ禍であり、関係団体と書面のやりとりになる時もあるが2ヶ月毎に必ず実施している。地域の方々へホームを知って頂きたいと新聞作りを始めたが、まだ区長に相談はできていない。	どのような取り組みを行っているか伝え続けていくことが必要であり、ホームを知って頂けるよう周知することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市も地域資源である為、大いに活用させて頂き、意見を頂いたり、報告をしたりして協力関係を築いていけるように努力し、取り組んでいます。	管轄広域市町村圏組合や市役所、地域包括支援センター等に相談を行っており、アドバイスを頂くなど関係性は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束の勉強会を定期的に行い、拘束を行わないケアを実践しています。言葉による拘束にも留意し、疑問形での声かけを行うように心がけ、命令口調にならない様に注意しています。	命令口調にならない対応について話し合う等、身体拘束の勉強会を開催している。命令口調になる職員がいたら、注意し言い直すなど対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束、虐待共に定期的に勉強会を行い、職員にも浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている入居者がおられ、その点では理解できていると思う。他の事は繰り返しの知識の吸収で、不十分である所はまだまだこれからも取り組んでいきしっかりと身に付けて行きたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけ疑問点、不安点が無いよう説明を行い、又改定等発生した場合は、文書にて説明、同意を得る様に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や面会時、又は電話にて意見や要望等をお聞きしたり、ご意見箱を設置したり、他に相談する窓口にて電話番号を提示し運営に反映させている。	入居者と面会されている時や家族への電話を行い、話をさせていただき意見を伺っている。家族からは満足しているとの回答が多く、要望の意見は聞かれていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、全体会議時、申し送りノートを活用し、意見等を聞き取りしている。管理者会議を経て代表者に伝達し、検討を行い反映して頂いている。	毎月職員全員参加で会議を行っている。ベテラン職員だけでなく新人職員も意見を出し合える環境である。会議で意見が出た内容は、代表者へ管理者が伝達できている。職員の勤務調整は管理者が柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当ホームは小規模施設である。世間一般に知れ渡っている様に、他職種より給与水準も低く一様に出来ない環境である為、その中で出来る事から整備されている状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が無料であったり、有料であったりするが、経営が厳しい中でも、有料研修の参加をさせて頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者にはその機会もありますが、広く職員も少しずつ質の向上ができるように、勉強会に参加させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族、ご本人等入居前後、聞き取り調査や、医者の情報提供を活用し、ご本人が安心、安全、安楽に暮らしていけるよう職員間の支援の統一徹底を図り、心安らぐ生活ができる様支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く関係性は重要である。相互に信頼関係を築き、不安の無いような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記15、16番を踏まえ、現段階において、ご本人にとって今何が一番必要なかを判断し、サービス提供を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事を一緒に行い、共に過ごし、少しでも家庭的な雰囲気になぞける様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは、利用者様の代弁者である事。御家族様が面会に来られて顔をみられても思い出せない、名前が出てこない、面会に来ても悲しいだけ。そういう所からお手伝いをし、会いに来られた事を別の形で表し、理解されている事から説明を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までも、これからも通い入れた病院、美容院、ご友人とのお手紙のやりとり等、途切れる事のない様支援に努めています。	コロナ禍前はドライブへ出かけ馴染みの場所にも行っていたが、現在は家族の協力を得ながら、自宅へ帰ったり馴染みの美容院に行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友達同士の様な関係の方もいっしょにいれば、関係作りが苦手な方もいっしょにいます。孤立されない様に、スムーズに声かけができる様お手伝いをさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方には「困られている事がありましたら、ご遠慮なくご相談ください」とお伝えし、又「遊びに来て頂きたいと思います」ともお伝えし、相談や支援の用意がある事で、安心して戴けるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人に、自由な思いどおりの生活をして頂いています。今後もご本人、ご家族様の意向に重さを置き、安心して過ごして頂ける様取り組んでいきます。	入居者と個別で話す場を作ることで、涙を流しながら話されることもあり、一人ひとり意向を聞き取り、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様に聞き取りを行い、個々のサービスや支援に繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせた一日の流れ、バイタルチェックにより体調の変化、顔色、メンタル面の観察、食欲、質の良い睡眠等、夜勤から日勤に申し送りをし、安心、安楽に過ごして頂いています。又、有する力を損なわない介護に努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様に希望等をお聞きし、担当者会議で話し合い、その方に合ったプランを作成しています。	介護計画は管理者が家族に説明し、毎月モニタリングを実施し、家族とも共有ができています。バイタル表や日々の様子は医療機関にも資料として提出し状態説明に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々について、申し送りノートを利用し、職員間で話し合い、情報の交換を行い、その情報をプランに上げ実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応し、その方々の希望や、心身の状況に添ったサービスを提供して行ける様取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会、小学校の慰問等を実施していましたが、コロナにより現在活動をお休みしています。今後もボランティア等の活用にて変化のある暮らしの支援の向上を目指していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を基本としています。	皮膚科や眼科なども入居前のかかりつけ医を受診して頂いている。希望等ない場合は、ホームのかかりつけ医を受診して頂いている。職員が受診同行した際は、家族へ受診結果の説明を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化をきたした方は、看護師に報告をし、状態に応じて医療機関に連絡を行い、適切な医療を受けられるよう支援します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、入院時は医療機関に状態の説明をし、情報等の交換を行い、安心して頂ける様支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約を交わす際、終末期に関することも説明し、ご家族の大まかな意向を確認。ご家族やご本人の意向のまま支援します。	終末期を迎えたら医療機関へ移っていただくよう、入居契約時に説明を行っている。終末期の支援については職員間で話し合い、共有は図れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議時に話し合いを行っています。殆どの職員が応急手当が出来るようになりました。職員の質の向上を目指し、定期的に勉強会を行って行きたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って年3回ほど入居者様を交えて訓練を行っています。利用者様にも消火器を持って頂き消火の手伝いをしてもらい参加してもらいました。消防署からの指導も受けてます。	新人職員、入居者も含め年3回、水害経験を活かし防災意識を高める訓練を実施している。消防署の見守り対象地域でもあり消防署との連携はあるが、地域の消防団との連携はまだである。	消防団との連携が図れていないため、地域との交流を深めるにも、消防団や地域との関わりを密に行えることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーの保持、人格を尊重し、接しています。知らず知らずのうちに入居者様を傷つけていないか、職員会議時に話し合いを行い対応を行っています。	プライバシーに配慮した声掛けや、必要時の同性介助など対応している。職員の声掛けには気を配っており、職員同士で気づき合いの関係性が築かれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服装選びはご自分で行って頂くようにしていますが、ご自分で出来ない方には一緒に選んであげたり、思いや希望は不定せず、希望に添えるように行っています。又、管理者としては、疑問系で声掛する様に指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れになりがちですが、個々のペースを大切に、ご本人の希望に沿いながら支援できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな服装を選ぶ手伝いや、髪飾りをつけたり、マニキュアをしたり、自由に好きなおしゃれを楽しんで頂ける様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは難しくなってきましたが、出来る方には下膳や、コップを運んでいただいたり、味見をして頂いています。特におやつ等は、季節に合わせ色々工夫を楽しんで頂いています。	入居者の重度化が進み、食事の準備は一緒に行なわれていないが、可能な方には下膳など協力いただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、個人記録に記載し、水分量は時間を決めて摂水して頂き、他の時間帯にも職員の方から声掛けし進めています。食事形態は個々の状態にあった食事形態にて提供しています。又、その日の状態にあわせた食事介助、食べ方を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助を行っています。できるだけ自信で磨いて頂き、出来ないところを支援しています。磨き残しが無い様に確認を行い、義歯や歯に不具合が生じた場合は歯科に連絡し往診をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し失敗を少なくする工夫を行っています。夜間オムツを使用されている方も日中はトイレでの排泄を支援しています。	日中はオムツ使用されている方も可能な限りリハビリパンツで対応し、排泄への声掛け誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容に留意し、運動を行い、それでも排便がない場合は緩下剤を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴を好まれる方は、好きなどきに入っただき、ご自分のペースで入られています。拒否をされる方もいらっしゃいますが、色々な誘い方を工夫して不潔にならないように支援しています。	入浴の声掛けを行い、本人の希望される時間帯に入浴していただいている。入浴の際は時間をゆっくり使っている。入浴の順番もその都度変更しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午眠をされる方、されない方、1人1人自由にされています。日光浴や体操等を行い夜間の安眠に繋がられる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の、薬の内容等記載された調剤内容をファイリングし確認を行っています。又、症状の変化に伴い薬の変更等があった場合にも確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作りおやつ会に参加できる事が難しくなっていますが、その方々の意欲、力等にあつた家事を強制ではなく、お声掛けに気持ちよく応じてくださる方々と職員共に行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、ショッピング、外食等を計画し、行きたい所に個別に支援をしていましたが、コロナにより実行できていません。敷地内の散歩を行い気分転換を行っていただいています。これからも個別に行きたいと希望されるところに行ける様支援を行って行きたいと思っています。	コロナ禍で外出支援が行われていない。敷地内を散歩しながら四季折々の風景等を楽しんでいただいている。家族が近くにおられる方は、家族で病院受診時や美容室などへの外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いをお預かりし、欲しいものがあられる場合、ジュース等であれば敷地内にある自動販売機まで行き、自分で買って頂くお手伝いをしています。今後はコロナの状況を確認し、買い物にいかれたい方にショッピングを計画したいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることを希望されるときは、ホーム内の電話を使用し、御家族様や、望まれる方へ電話をして頂き、お手紙を書かれたり、その時々で最善と考えられる支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、行事の飾り、入居者様と話し合いながら工夫しています。お風呂場には冷暖房を完備し気持ちよく入浴して頂き、トイレは汚染に気をつけ常に清潔が保てるように努力しています。	リビングの天井には青空が描かれており、窓も広く開放感がある。職員は元気に溢れ、和やかな雰囲気である。温度計も設置され適温が保たれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士がトラブルにならないように席を配置し、仲の良い方々同士にテーブルを分け、不快感の減少に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に御家族、ご本人にお任せし、職員は出来るだけ口出しをしないようにしています。荷物等は職員で運ぶようにし、お手伝いをさせていただいています。又、使い慣れ親しんだ物をご持参して頂くようお願いしています。	タンスなど慣れ親しんだ道具の持ち込みは可能である。家具等の配置については、入居者と家族で話し合ってもらい配置している。職員は配置された動線上に危険がないか注意を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時に場所の説明を行い、夜間はトイレに行かれる時に部屋を出られると、センサーが反応し電気が点灯します。電気がつくと必ず職員が見守りを行い安全にトイレまで歩行が出来るようになっていきます。		